

社会福祉法人いわき福音協会

会 報 第2号
1998.12.10

発行責任：いわき福音協会 ☎0246-25-8131
住 所：福島県いわき市平上平窪字古館1-2

掛田尚弥さん(中二)の作品 コンピューターグラフィック



神の力は弱いところに完全に現れる(コリント12の9)

今、日本中の人たちが景気の回復を待ち望んでいます。景気のよい世の中とは、もっと物が生産され、その売買が活発に行われる世の中で、当然とても忙しい社会です。

郎 心や体に障害のある人や老人は忙しいのは苦手ですから、もう一度景気が回復しても前と同じでは楽しくありません。

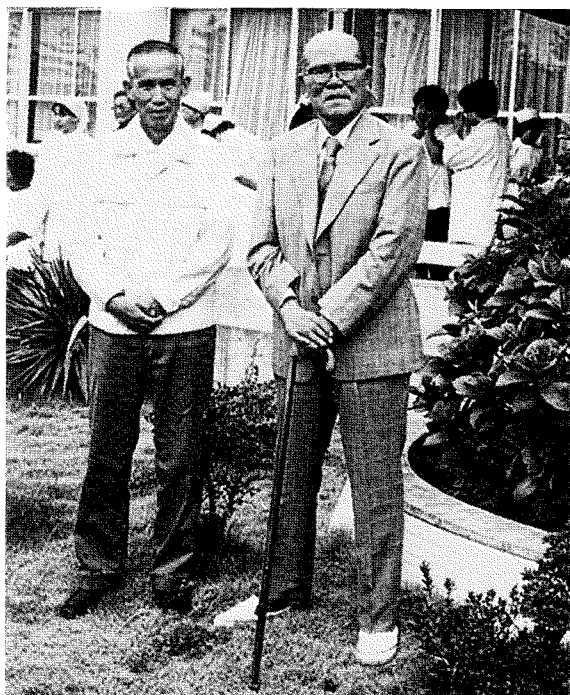
治 その中で物の生産は或程度に抑えて、手許にあるお金を思いきって福祉に使ったらもっとちがう形で景気のよい社会ができるのではと思うのです。どうでしょうか。

理事長 湊 聖書(ルカ14:22)にイエス様によるこんな譬え話があります。あるご主人が晩餐会をひらいて偉い人や金持を招待するのですが、いろいろ理由をつけて誰も出席しません。それでご主人は人を街にやっ

て、障害者や貧乏人を無理無理ひっばってきて晩餐会をしたというおかしな話です。今社会の中心になっているのは若くて健康で頭の良い人達です。でも若さも健康も頭脳もみんなやがて衰えるものですから、それらを中心にした今の社会は非常に不安定で心配が絶えません。そこでむしろ一番弱いもの小さいもの貧しいものを中心に世の中を考え直すと、はるかに安定した広い見方ができるといえるのがこの譬え話の意味合の一つです。

私たちがかわっている福祉や医療の仕事はみんな弱い方達のための仕事ですが弱い人達を訓練して強くしようとしたり、指導して正常に近くすることが福祉や医療のすべてだと考えてきた時代もありました。でも変えることのできない弱さの存在も大切な課題であることにみんな気づきはじめてきたのがこの頃です。やはり聖書に表題の(神)の力は(人の)弱いところに完全に現れる(コリント12:9)ということばがあります。人の弱さを弱さのまま畏敬の心をもって見なさいということだと思えます。そうするとそこに神さまの力をまざまざと見ることができるといえるのです。

もしかすると今世の中で一番大切なことは、経済も福祉も、又医療や教育も本当は一番弱い人を中心にしてすっきり見方を変えて組立て直すことかも知れません。



大河内一郎先生と

『人生ありがとう』の

言葉を残して

鎌倉章前理事長召天

去る、八月二十四日に鎌倉章前理事長が召天されました。

八月二十九日鎌倉家、いわき福音協会の合同葬儀がせきのホールでしめやかに行われ、福祉関係、教会関係、利用者等多くの方々が参列し、故人と別れを惜しみました。

氏は、大河内一郎先生と共に、キリスト教信仰を基に福祉法人を創立し、保育園、身体障害児者、知的障害者等の施設設立にかかわり『小さき

者の幸せ』のために一生を捧げられました。

死の直前、信仰の友に『人生ありがとう』と感謝の言葉を残されたそうです。生きるすべての問題解決を聖書に求めた『信仰の人』でした。

生前、共にご苦労なさいました根内務はまぎく荘所長、教会を同じくしていました鈴木キヨ前療護園会計主任のお二人に鎌倉先生を偲んでいた

鎌倉章先生の航跡

はまぎく荘所長 根内 務

死は悲しみでなく喜びである。神の国への凱旋だ!! と言いつける人は、そうは居まい。いかに死ぬかは「いかに生きるか」と表裏一体のものとして、私達にせまってくるものがある。

鎌倉先生は昭和二十七年に県の要職を捨てて福島整肢療護園の運営に参加し、大河内先生の女房役として肢体不自由児の療育発展を願い、補助金の無い時代から大変なご苦労をされました。またいわき福音協会のバックボーンである「聖書の信仰」を貫くため

始められた礼拝朝会は今も継続され、賛美歌が流れます。またカナン村の建設、所長として運営困難時に大河内先生が病気で倒れられて理事長職も引受け、法人事業を立派に完成させられたのは周知のとおりであります。

いわき市民のため「市民クリスマス」を創始、ギデオンの協会で聖書配布、キリスト教墓地シオンの丘の建設等々その功績は教え切れません。

「この小さき者の一人に」といふ鎌倉先生の願いと信仰は神が共にいて下さり、永遠

の命を下さるという金太郎飴のような確信でした。

青空に白い飛行雲のような鎌倉章先生の歩んだ航跡は真直ぐに天国に続いています。四十三年間お世話になりました。

在りし日の鎌倉先生

療護園前会計主任 鈴木キヨ

小鳥のさえずりと共に午前六時チャペルの鐘が鳴る。

一九六三年九月、ニコルソン先生の活動によりアメリカ各地教会の浄財によって大河内先生の夢であったチャペル「友愛記念館」が完成した。

一日の勤労の始まりと夕の感謝の祈りをもって鐘楼で打ち鳴らし続けた鎌倉先生でした。先日ふと想い出して鐘楼に入ってみました。正面の板壁に茶色に変色した一枚の紙に「全世界に出て行って、すべての造られたものに福音を

宣べ伝えよ」マルコ十六・十五、自筆で書かれ張られたものでした。全世界に神の言葉を伝える如く力強くそして高



左前：大河内一郎先生、加藤功さんご夫妻
鎌倉章前理事長、大谷英子さん

りです。三十数年前の或る日、奥会津の山間部で入園児の一人の父親が亡くなられた。現在ではマイカーで三・四時間で行かれますが当時は汽車と徒歩で往復三・四日はかかったと思う。葬儀の後、残された家族を励まし園児を慰めながら再び二人で寒い冬の日そっと帰園されました。「右の手にしていることを左の手に知らせるな」、いつくしみ深い心魂の鎌倉先生でした。在りし日のお姿を思い出します。

平成9年度(1997年) 事業報告

1. 平成9年度の標語

『光の子らしく歩きなさい』

—エペソ人への手紙 5章8節—

○はまぎく荘：給水給湯配管替え工事

総事業費 5,985,000円

補助金 3,000,000円

2. 事業の開始

(1) 「グループホーム神谷」の開設

事業の種類：精神薄弱者生活援助事業

住 所：いわき市平中神谷字細田78-4

入居定員：4名

開所日：平成9年10月1日

(2) 市町村障害者生活支援事業の開設

住 所：いわき市平上平窪字羽黒40-51

開始日：平成9年10月1日

バックアップ施設：野の花ホーム

(2) 中央競馬馬主社会福祉財団

はまなす荘：ボイラー本体交換工事

総事業費 8,400,000円

補助金 6,000,000円

(3) 遠藤医療福祉助成財団

はまぎく荘：避難道路舗装工事

総事業費 1,942,500円

補助金 1,374,000円

(4) 車両競技公益資金記念財団

(平成9年度ボランティア活動推進助成事業)

野の花ホーム：コーヒーメーカー等

総事業費 376,950円

補助金 370,000円

3. 補助金等による事業

(1) 福島県総合社会福祉基金による整備

○野の花ホーム：入所者間仕切りカーテン取替え

及び車椅子足拭きマット設置事業

総事業費 2,005,500円

補助金 1,500,000円

平成9年度 社会福祉法人いわき福音協会財務報告 (単位：円)

<一般会計>

貸借対照表

借 方		貸 方	
科 目	金 額	科 目	金 額
流動資産	20,711,700	流動負債	16,147,404
固定資産	2,123,067,083	固定負債	37,650,000
		基金	1,788,761,830
		積立金	296,655,253
		繰越金	4,564,296
資産合計	2,143,778,783	負債・純財産合計	2,143,778,783

収支計算書

自平成9年4月1日～至平成10年3月31日

借 方		貸 方	
科 目	金 額	科 目	金 額
事務費支出	34,417,444	補助金収入	14,012,950
元利償還金	9,423,950	寄附金収入	20,573,753
繰入金支出	40,768,150	繰入金収入	94,421,500
積立金繰入	81,868,000	雑収入	1,899,894
当期繰越金	417,197	積立金戻入	35,986,644
合 計	166,894,741	合 計	166,894,741

<特別会計>

貸借対照表

借 方		貸 方	
科 目	金 額	科 目	金 額
流動資産	163,341,645	流動負債	163,341,150
固定資産	217,042,270	固定負債	30,000,000
		基金	217,042,270
		積立金	△ 30,000,000
		繰越金	495
資産合計	380,383,915	負債・純財産合計	380,383,915

収支計算書

自平成9年4月1日～至平成10年3月31日

借 方		貸 方	
科 目	金 額	科 目	金 額
事務費支出	15,091,150	補助金収入	156,621,000
固定資産取得費	204,540,000	繰入金収入	33,010,150
当期繰越金	495	雑収入	495
		設備資金借入金収入	30,000,000
合 計	219,631,645	合 計	219,631,645

※社会福祉法人いわき福音協会は、減価償却は行っておりません。尚、詳細については、法人事務局に備えております。

「湊 治郎 理事長」に栄誉 高木賞 受賞

肢体不自由児の療育の向上に努めてきた貢献者に贈られる「高木賞」(社会福祉法人日本肢体不自由児協会内高木賞委員会)の第二十二回目は、当法人の湊治郎理事長が受賞されました。

贈呈式は、十一月十七日都内高輪プリンスホテルの鳳凰

間で、本総裁の常陸宮殿下並びに同妃殿下のご臨席で行われました。

高木賞は、わが国で初めての肢体不自由児・者の体系をたてられ、療育事業に偉大な貢献をされた故高木憲次博士のご遺徳を永く記念するために設定されました。



贈呈式場で

肢体不自由児・者療育の領域において特に顕著な功績のあったものに、毎年贈られるものです。本年度は、肢体不自由児の療育及び障害児教育の発展に尽くした功績が認められ、湊治郎理事長に栄誉が贈られました。本当におめでとうございます。

施設紹介

私どもの法人は、いろいろな種類の施設を経営しております。前回の小島保育園、福島整肢療護園に続いて、今回は、はまなす荘の福祉活動を紹介します。

はまなす荘

はまなす荘は、昭和四十八年、いわき市手をつなぐ育成会が知的障害のある人達の自立訓練のための施設として、県に働きかけて、県立民営(運営は、いわき福音協会)で発足しました。その後、平成六年に、建物を県より譲り受け、民立民営で再スタートしました。

現在、はまなす荘は、利用者百名、(男性四十名、女性六十名)で生活しています。日々の日課では、月々金曜は、就労に向けての作業を行なっています。作業種目は、外部よりの受注作業で輪ゴムの袋詰め、計量、箱詰め作業、防虫、防臭剤の袋詰め作業、ワカメの袋詰め作業があります。又、いわきの伝統工芸「いわき絵のぼり」の下塗作業、ステンシル絵付けによる袋物、テーブルセンター等の創作、それから、菓子製造科のパウンドケーキの製造販売を行な



ワカメの袋詰め作業

ひ、お気軽においで下さい。私達は、これからも、障害があっても、共に地域の中で暮らせる社会づくりに向けて、地域の人達と進んでいきたいと思っておりますので、ぜひ、ご協力下さい。

い好評を博しています。

外作業としては、米、野菜づくり、季節毎の花づくりを行い、公民館まつりやスーパーセンターでの施設製品販売時に出荷しています。

土曜日の日課は、余暇活動でボランティアの協力を得ながら自分が好きなクラブ活動を行ない、交流を深めながら楽しい一時を過ごしています。私達は、施設が、施設利用者に対するサービスと並行して障害のある在宅の人への施設利用としてショートステイを実施しております。又、相談等も受けておりますので、ぜひ



いわきの伝統工芸「いわき絵のぼり」の下塗作業

編集後記

二号目の法人の会報が発行されました。原稿を頂き、企画にご協力下さった、皆さんに感謝致します。お気付きの点がございましたら法人事務局まで、ご意見をお寄せ下さい。